

2022' 11 DancersWeb

トップインタビュー Vol.88



2021年12月『くるみ割り人形』ドロッセルマイヤー
©K-BALLET COMPANY



2022年9月『プティ・コレクション—プティ・プティ・プティ!』『Petit Maison』
©Hadem Sato

杉野慧 Kバレエ カンパニープリンシパルソリスト

「何を踊っても様になるダンサーになりたい」

熊川哲也さんの踊りに触発され、6歳でバレエを習いはじめ、16歳でKバレエ スクールに入学、2011年にKバレエ カンパニーに入団する。2021年に『ドン・キホーテ』のバジル主演後にプリンシパル・ソリストに昇格。これまでに、ロットバルト、闘牛士エスカミーリョ、エスパーダ、ティボルト等、様々なハマリ役で多くのバレエファンを魅了してきた。2022年9月・10月に出演したK-BALLET Opto「プティ・コレクション—プティ・プティ・プティ！」では新たな魅力で観客を沸かせた。10月26日(水)から開幕中の『クレオパトラ』のリハーサルの合間を縫って、

快くインタビューに応じてくれた。



— K-BALLET Opto の『Petite Maison(プティ・メゾン)“小さな家”』の悪魔役は、不敵な笑みを湛えて圧倒的な存在感を放っていました。終演後はどのような思いを抱かれましたか？

教えていただいたことを今の僕のレベルではやりきれたなと感じていましたが、いや、もっとできたなという思いも湧いています。

ほぼ毎日リハーサルがあって、学びに行く楽しさが大きなモチベーションになっていました。終演後の達成感というよりは、その時間が終わってしまうんだなという寂しさの方が大きかった。

— 舞台上に散らばったたくさんの紙の演出なども面白かったです。

この作品のメッセージ性をどう捉えていらっしゃいましたか？

紙の演出は、視覚的効果も狙ったのだと思います。

はじめは、黒の悪魔と白の天使のダンサーが分かれて踊っていますが、そのうち黒と白のダンサーが混ざり合う。そして最後は手を取り合って白と黒の良いバランスで協力関係になっていく。そういったメッセージ性を僕は受け取りました。

— 初の森優貴さんの振付でしたが、リハーサルの際の印象は？

森さんの印象は一言でいうとポジティブで明るいリーダーです。

2 回目のリハーサルで森さんからダンサーひとり一人にキャラ付けをしていただいたのですが、「慧くんは赤レンジャーやな」と。その時僕が身に付けていたバンダナとTシャツが赤でしたし、性格も結構熱いタイプだからかも(笑)。

森さんは日頃から色々なことを発信されていて、あらゆる方向にアンテナを張っている方です。リハーサルでは、僕たちに分かるように色々なたとえ方をして提示してくれて、言葉の表現方法も豊富な方だと思います。

ダンサーひとり一人を見てくださり、それぞれのダンサーの特質を受け入れながら、日によって休ませたり、もっと練習させたりという個別の対応や気遣いが深く、『プティ・メゾン』の出演メンバーにも自然に団結力が生まれました。

— 『Petite Maison(プティ・メゾン)“小さな家”』で、もっともチャレンジングと感じた点は？

クラシックバレエにはない動きですね。

立っているときのスタンドポジションを広めにとるのはクラシックバレエの動きとは違うので、強く意識しなければ理想の動きに近づけないという点に試行錯誤しました。

—2022 年 1 月に K-BALLET COMPANY のトリプルビルに出演された際、「課題も色々見つかった」と語っていらっしゃいました。

僕は『シンプル・シンフォニー』、『クラリモンド~死霊の恋~』全編、『FLOW ROUTE 』のすべてに出演したんですが、シンフォニーバレエのような速いパや動きをこれまで経験したことがなかったので、途中で集中力や精度が落ちてくるのを感じました。また僕はどちらかというとソロの出演が多く、アンサンブルがなかったのでそれも新鮮でした。

— 学生時代はバレエ以外にも部活もされていたそうですね。

中学 1 年のときにバスケ部に入りました。

じつは小学 6 年のとき、中学受験を機にバレエを辞めていました。それでバスケをはじめたんです。

その他にも、中学 2 年生から選択授業でフルートを始めて、音楽部の部会に入部し、高校に進学してからは 2 年生まで吹奏楽部所属していました。

幼いときからクラシック音楽が好きで、『カルメン』の間奏曲を弾きたくて。一曲フルで吹けるようになったとき、改めて素敵な曲だなと感動したと同時に、それまで封印していたバレエへの思いが溢れてきて、バレエに戻りたいと。

今振り返ると、「もうバレエを辞めたんだから」とあきらめて見ないふりをしていたんだと思います。

— その後、Kバレエ スクールに入りましたが、きっかけがあったのでしょうか？

中学2年のときに近くのバレエスタジオに通っていたのですが、バレエを続けることを母親が応援してくれていて、Kバレエのサマースクールへの参加を勧めてくれました。

サマースクールの講師がとても面白い方で、レッスンが楽しく、もっとバレエを教わりたいと思い当時開校したばかりのKバレエ スクール恵比寿校に通うようになりました。

— プロのダンサーになろうと思いを抱いたのはいつ頃からですか？

Kバレエ スクールの本校へ入学するためのオーディションに合格したときでしょうか。熊川ディレクターから「1ヵ月後に小石川のスタジオに来なさい」というお言葉を直接いただき、一緒にいた同い年の男子とふたりでハグして喜びを分かち合ったのを覚えています。

目の前に熊川ディレクターがいることを一瞬忘れていました(笑)。そのときからプロになることを意識したんだと思います。

— これまで出演された中で、もっとも忘れられない舞台はありますか？

2021年5月22日にバジル役で出演した『ドン・キホーテ』です。

あの日の感覚は忘れられない。その日はちょうど僕の誕生日だったのも偶然ですが、カーテンコールの直後に来シーズンからのプリンシパル・ソリストへの昇格を告げられたんです。

過去で一番の出来事と言っていいくらい、あれほど楽しかった舞台はなかったですね。

— 一方で、『シンデレラ』のバレエ教師役が非常に難しかったと語っていらっしゃいましたが、どんなところですか？

僕はキャラクターが濃い役に出演させていただくことが多く、演技で魅せていたんですが、バレエ教師役は長いヒゲも付けていて、外見だけでキャラクターがすでに完成されている。なので、いつもの感じでいくとやりすぎになってしまう。でも淡々と踊るだけだと物足りないというさじ加減が難しかったです。

カッコいい役は衣裳やメイクが助けてくれるのですが、コミカルな役ははじめてで、この場面で笑わせるというのは一種のセンスが必要だなと感じました。

— これまでダンサーとして、一番励みになっている言葉はありますか？

熊川ディレクターからいただいた言葉が一番印象に残っています。

「全力で演じ切るのがおまえだろ。どんな役でも100パーセントで挑むのが杉野慧というダンサーだ」。その言葉がいつもモチベーションになっています。

— これまでで、もっとも困難だった時期を経験されたことはありますか？

あります。2、3年に一度ぐらいの間隔でバイオリズムがあると思います。

毎日クラスレッスンや基礎レッスンをしていても、舞台上でタイトを履くチャンスがないと、ときどきタイトで踊っている仲間達が羨ましくなる。僕もクラシックバレエダンサーのはずなのに、というジレンマはありました。

その当時は気持ちが切り替えられず、苦しい時期がありましたが、ここで諦めたら余計に遠のいてしまうので、頑張っただけです。バレエを辞めたら、僕が存在している意味がなくなってしまう。そうという気持ちもどこかにあるんだと思います。

— 12月は、『くるみ割り人形』でドロッセルマイヤー役をグレゴワール・ランシエさんとのダブルキャストで出演されます。ドロッセルマイヤーはある使命を帯びて人間界にやってくる物語を導く重要な役どころです。

杉野さんならではのこだわりと好きなシーンはありますか？

演技と演技の間が空白にならず、物語が途切れないように空気感を大事にしています。雪の国へ行く前にクララと王子と3人で踊るパ・ド・トロワのシーンは特に心躍ります。音楽も高揚感があって、いつもワクワクしますね。

— 2023年1月には、K-BALLET Opto「プラスチック」の公演の『ビニール傘小町』に出演されます。リハーサルはこれからということですが、渡辺レイさんと森優貴さんの振付作品に出演されて、気持ちの変化はありましたか？

素直にコンテンポラリーダンスが好きだという気持ちを抱きました。

その一方で、クラシックバレエダンサーとして、綺麗なラインをもっと追求していきたいですし、キャラクターだけでなく、古典作品の主役ができるようなダンサーに成長したい。何を踊っても様になるダンサーになりたいですね。

K-BALLET COMPANY『くるみ割り人形』

[東京]2022年12月14日(水)～18日(日) Bunkamura オーチャードホール

[富山]2022年12月23日(金) オーバード・ホール

<https://www.k-ballet.co.jp/contents/2022nutcracker>

K-BALLET Opto「プラスチック」

2023年1月8日(日)、9日(月・祝) KAAAT 神奈川芸術劇場ホール

https://www.k-ballet.co.jp/contents/23_opto_julian

【杉野慧 /Kバレエ カンパニープリンシパルソリスト】

神奈川県生まれ。6歳よりバレエを始める。2008年Kバレエ スクールに入学。

2011年8月Kバレエ カンパニーにアーティストとして入団。2014年1月ファースト・アーティスト、2015年8月ソリスト、2018年9月ファースト・ソリスト。2021年9月プリンシパル・ソリストに昇格。「Ballet Gents」メンバー。2013年8月Kバレエ ユース第1回記念公演『白鳥の湖』のロットバルト、2015年4月第2回公演『トム・ソーヤの冒険』のインジャンジョー、2017年8月第3回公演『眠れる森の美女』のカラボスを踊る。

https://www.k-ballet.co.jp/kei_sugino